

シンテッポウユリ9月出し栽培における切り下球根の利用条件

佐藤孝夫・山形敦子・間藤正美

(秋田県農林水産技術センター農業試験場)

Storage Condition of *L. × formolongi* bulbs for Harvesting of Flowers in September

Takao SATO, Atsuko YAMAGATA and Masami MATO

(Agricultural Experiment Station, Akita Prefectural Agriculture, Forestry and Fisheries Research Center)

1 はじめに

シンテッポウユリは、播種後1年以内に開花する性質を有する早期開花性のユリで、秋田県の花き生産における生産額は1.1億円(2007年)に至り、キク類、トルコギキョウ、リンドウに次ぐ第4位である。作型は露地栽培が中心で8月～11月が出荷期間である。そのなかで、9月は全国的にシンテッポウユリの端境期で、東北地方の生産が主力であり、高単価が期待できるが、採花期が不揃いで9月に集中出荷できる栽培技術求められている。本試験では、他のユリ類で用いられている球根貯蔵法を用いることで、9月出しに適した球根の利用条件を検討する。

2 試験方法

(1)試験場所 栽培圃場：農試圃場、秋田県鹿角市農家圃場

(2)試験年次 2005年～2007年

(3)供試品種 雷山1号

(4)試験区の構成および耕種概要

1)試験1：球根の貯蔵温度が生育に及ぼす影響(2005年～2006年 鹿角市農家圃場)

貯蔵温度区：1℃、0℃、－1℃、－2℃、－3℃
播種日：2005年2月5日、定植日：2005年5月10日、1作目切り花収穫期間：2005年8月～10月、球根掘上げ：2005年10月14日、球根調整：球周10～12cm、球根予冷温度・期間：1℃・2005年10月28日～12月9日、球根冷凍温度・期間：－2℃・2005年12月9日～2006年6月18日、球根解凍温度・期間：5℃・2006年6月18日～7月6日

2)催芽期間の違いが生育に及ぼす影響(2006年～2007年 秋田農試圃場)

催芽期間区：1週間、2週間、3週間、4週間

播種日：2006年2月5日、定植日：2006年5月8

日、1作目切り花収穫期間：2006年8月～10月、球根掘上げ：2006年10月8日、球根調整：12～14cm、球根予冷温度・期間：1℃・2006年10月25日～12月6日、球根冷凍温度・期間：－2℃・2006年12月6日～2007年6月18日、球根解凍温度・期間：5℃・2007年6月17日～7月7日、定植日：2007年7月5日

3)球根の大きさが生育に及ぼす影響(2005年～2006年 秋田農試圃場)

球根サイズ区：6～8cm、8～10cm、10～12cm、12～14cm)

播種から定植までは、試験1と同じ。

4)球根の養成期間による球根肥大割合(2005年から2006年 鹿角市農家圃場)

球根養成期間区：1年、2年

播種から定植までは、試験1と同じ。1作目切り花収穫期間：2005年8月～10月、2作目切り花収穫期間：2006年8月～10月。1作目球根掘上げ：2005年10月14日、2作目球根掘上げ：2006年10月15日

3 試験結果及び考察

(1)試験1：

1)球根貯蔵温度1℃では、3月5日においてすべての球根で発芽し、長期間の貯蔵温度には不適であった(表1)。

2)貯蔵温度0℃では、解凍後の出芽の伸長が最も早く、2輪以上の着生率が最も高かった。さらに、採花期間が9月11日～19日までに揃った(表1)。

3)貯蔵温度－1℃では解凍後の出芽が良く球根の腐敗も無かったが、1輪着生率が83.3%と高かった。採花期間は9月中旬から下旬であった(表1)。

4)貯蔵温度－2℃および－3℃では、解凍期間に貯蔵中の凍害と思われる球根の腐敗があり、特に

－ 3℃では 93.3%の球根が腐敗した。さらに－ 2℃では採花期間が 10 月まで抑制された（表 1）。

（2）試験 2：

1）各催芽期間において、切り花長はいずれの区も 100cm 以上確保できて、催芽期間による切り花長の差は認められなかった（表 2）。

2）催芽期間が長いほど、2 輪以上の花蕾数が多くなった（表 2）。

3）7 月 5 日の定植において、催芽期間が 2 ～ 4 週間で、採花は 9 月に終えた（表 2）。

（3）試験 3：

1）球根の球周が大きいほど、切り花長、花蕾数、葉数は増加し、球周 8 ～ 10cm では切り花長が 67.1cm で、球周 12 ～ 14cm においては 90cm 以上であった（表 3）

2）球根球周で 8 ～ 10cm 区と 10 ～ 12cm 区の採花期間に差は認められなかった。12 ～ 14cm 区の採花期間は 10 月まで抑制された（表 3）。

（4）試験 4：

1）1 作目における球根の肥大は球周 8cm 以上が全体の 65%を占めたが、球周が大きくなるほど球根割合が減少した（図 1）。

2）2 作目における球根の肥大は、球周 8 ～ 10cm が全体の 40%を占め、球周 8 ～ 14cm の球根は 1 作目よりも多かったが、球周 14cm 以上の大型の球根は 1 作目よりも減少した。

4 まとめ

以上のことから、シンテッポウユリの 9 月出し栽培において、球根の貯蔵温度は 0 ～－ 1℃が最適である。解凍および催芽期間は 4 週間行うことで、生育が促進され、花蕾数が増加する。球根サイズは大きいほど切り花長、花蕾数が増加するが、球周 8cm 以上あれば出荷可能である。球根 8cm 以上の球根は、掘上げ球根数に対して 1 作目で 65%、2 作目で 85%確保できる。

表 1 球根貯蔵温度の違いによる球根品質および切り花品質比較（2006年）

球根貯蔵温度	試験球数	貯蔵期間内出芽率 ^z	定植時の球根腐敗率 ^y	定植時における平均出芽長 ^y (cm)	花蕾数別採花割合 (%)				奇形花発生株割合	採花始期	採花盛期	採花終期
					1 輪	2 輪	3 輪	4 輪				
1℃	30	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0℃	100	0.0	0.0	5.5	70.0	14.0	14.0	0.0	2.0	9月11日	9月13日	9月19日
-1℃	30	0.0	0.0	4.7	83.3	6.7	6.7	3.3	0.0	9月13日	9月17日	9月26日
-2℃	30	0.0	3.3	0.7	36.7	10.0	10.0	0.0	50.0	9月19日	9月26日	10月 6日
-3℃	30	0.0	93.3	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—

表2 催芽期間の違いが切り花品質と採花期間に与える影響（2007年）

催芽期間	試験球数	催芽開始日	定植時における平均出芽長 (cm)	切り花長 (cm)	花蕾数別株数割合 (%)			採花始期	採花盛期	採花終期
					1 輪	2 輪	3 輪			
4 週間	20	6月7日	6.4	105.8	36.3	45.5	18.2	9月7日	9月13日	9月18日
3 週間	20	6月15日	4.4	104.9	42.9	44.8	12.3	9月18日	9月23日	9月26日
2 週間	20	6月21日	1.5	103.0	55.8	33.1	11.1	9月19日	9月24日	9月28日
1 週間	20	6月28日	0.0	102.7	56.8	33.3	9.9	10月3日	10月 8日	10月12日

表 3 定植日の違いと球根球周の違いが切り花品質と採花期間に及ぼす影響（2007年）

定植日	球根球周 (cm)	試験球数	切り花長 (cm)	花蕾数	葉数	採花始期	採花盛期	採花終期
7月7日	6～ 8	30	57.3	1.0	38.4	9月16日	9月25日	10月5日
	8～10	30	67.1	1.1	46.4	9月17日	9月27日	10月8日
	10～12	30	77.1	1.5	51.4	9月18日	9月27日	10月10日
	12～14	30	90.8	2.7	63.7	9月18日	9月28日	10月12日

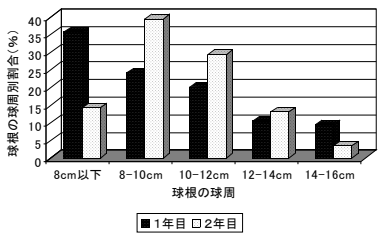


図 1 球根養成期間による球周比較（2006 年）